

令和8年6月5日

1. 出席議員

1 番	松 尾	咲 穂
2 番	釘 尾	勢津子
3 番	宮 崎	幸 宏
4 番	笠 継	健 吾
5 番	中 村	日出代
6 番	池 田	廣 志
7 番	杉 原	元 博
8 番	樋 口	作 二

9 番	中 村	一 堯
10 番	松 田	義 太
11 番	勝 屋	弘 貞
12 番	角 田	一 美
13 番	伊 東	茂
14 番	福 井	正
15 番	中 村	和 典
16 番	徳 村	博 紀

2. 欠席議員

な し

3. 本会議に出席した事務局職員

事 務 局 長	白仁田	和 哉
事務局長補佐	中 島	圭 太
議事管理係長	小野原	竜 久

4. 地方自治法第121条により出席した者

市 長	松 尾 勝 利
副 市 長	徳 安 博 行
教 育 長	吉 牟 田 一 広
政 策 総 務 部 長	川 原 逸 生
市民部長兼福祉事務所長	染 川 康 輔
産 業 部 長	中 村 祐 介
建 設 環 境 部 長	江 島 裕 臣
会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	高 本 将 行
総 務 課 長	嶋 江 克 彰
人 権 ・ 同 和 対 策 課 長	山 崎 智 香 子
政 策 調 整 課 長	峰 松 健 二
政策調整監兼DX・ゼロカーボン推進室長	三 ケ 島 正 和
広 報 企 画 課 長	田 中 美 穂
財 政 課 長	峰 松 一 政
政策調整監兼公共施設マネジメント室長	中 尾 勝 徳
市 民 課 長	幸 尾 か お る
市 民 課 参 事	橋 川 宜 明
税 務 課 長	山 口 洋
保 険 健 康 課 長	寺 岡 弘 樹
福 祉 課 長	高 本 智 子
産 業 支 援 課 長	松 丸 環 大
商 工 観 光 課 長	中 尾 美 佐 子
農 林 水 産 課 長	星 野 晃 希
農 業 委 員 会 事 務 局 長	松 尾 亨
建 設 住 宅 課 長	中 村 幸 男
建 設 住 宅 課 参 事	手 島 秀 康
都 市 計 画 課 長	堀 正 和
環 境 下 水 道 課 長	村 田 秀 哲
水 道 課 長	中 村 浩 一 郎
教育次長兼教育総務課長	江 頭 憲 和
生涯学習課長兼中央公民館長	森 隆 文

令和 8 年 6 月 5 日（金）議事日程

開 会・開 議（午前10時）

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
日程第 2 会期の決定
日程第 3 議案の一括上程（市長の提案理由説明）
-

午前10時 開会

○議長（徳村博紀君）

皆さんおはようございます。開議に先立ちまして申し上げます。

先例等申合せ事項で、議会における服装は5月1日から10月31日までの期間については、議場ではノーネクタイのクールビズ対応としたいと思います。

なお、上着の脱衣については個人の裁量にお任せしたいと思います。

去る5月27日、全国市議会議長会第102回定期総会におきまして、鹿島市議会から3名の議員が表彰を受けられました。議員名と表彰内容を申し上げます。

勝屋弘貞議員、議員15年表彰、角田一美議員、議員15年表彰、私、徳村博紀、全国市議会議長会評議員感謝状。

ただいまから表彰状を伝達いたしますので、演壇の前をお願いいたします。

〔表彰状伝達〕

表 彰 状

鹿島市 勝 屋 弘 貞 殿

あなたは市議会議員として15年市政の振興に努められその功績は著しいものがありますので第102回定期総会にあたり本会表彰規程によって表彰いたします

令和 8 年 5 月 27 日

全国市議会議長会

会長 丸 子 善 弘

代読。おめでとうございます。

〔拍手〕

表 彰 状

鹿島市 角 田 一 美 殿

あなたは市議会議員として15年市政の振興に努められその功績は著しいものがありますので第102回定期総会にあたり本会表彰規程によって表彰いたします

令和8年5月27日

全国市議会議長会
会長 丸 子 善 弘

代読。おめでとうございます。

〔拍手〕

○副議長（中村和典君）

感 謝 状

鹿島市 徳 村 博 紀 殿

あなたは全国市議会議長会評議員として会務運営の重責にあたられ本会の使命達成に尽くされた功績は誠に顕著なものとありますので第102回定期総会にあたり深甚な感謝の意を表します

令和8年5月27日

全国市議会議長会
会長 丸 子 善 弘

代読。おめでとうございます。

〔拍手〕

○議長（徳村博紀君）

以上で表彰状の伝達式を終わります。

現在の出席議員は16名であります。定足数に達しておりますので、ただいまから令和8年鹿島市議会6月定例会を開会いたします。

日程は、お手元の議事日程どおりといたします。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（徳村博紀君）

日程第1. 会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員に5番中村日出代議員、6番池田廣志議員、7番杉原元博議員を指名いたします。

日程第2 会期の決定

○議長（徳村博紀君）

次に、日程第2. 会期の決定を議題といたします。

今期定例会の会期は、お手元の会期日程案のとおり、本日から6月24日までの20日間といたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（徳村博紀君）

御異議ないものと認めます。よって、会期は20日間と決定いたしました。

この際、事務局長をして諸般の報告をいたさせます。白仁田事務局長。

○議会事務局長（白仁田和哉君）

諸般の報告をいたします。

まず、本日招集の6月定例会に市長から報告5件、議案3件の提出がありました。報告事項、議案番号及び議案名は、お手元に配付しております議案書の目次に記載のとおりであります。

次に、監査委員から令和7年度定期監査結果の報告がありましたので、その写しをお手元に配付しております。

以上で諸般の報告を終わります。

日程第3 議案の一括上程（市長の提案理由説明）

○議長（徳村博紀君）

次に、日程第3．議案の一括上程であります。

報告第2号から報告第6号までの報告5件及び議案第23号から議案第25号までの3議案を一括して上程いたします。

市長の提案理由の説明を求めます。松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

おはようございます。本日、ここに鹿島市議会令和8年6月定例会を招集し、諸案件について御審議をお願いするものですが、議案の提案に先立ちまして、2期目の市政運営に臨む所信の一端と今後の主要な施策について申し上げます。

去る4月の選挙におきまして、市民の皆様から温かい御支持と御信託を賜り、引き続き市政の重責を担わせていただくことになりました。1期目の4年間、私は市民に寄り添う行政と連携を市政の核として歩んできました。

社会情勢が大きく変化し、市民ニーズが多様化する現在、市民の声を絶えずお聞きすることは、市政運営において重要な指針となります。私はこれまで、まちづくりのパートナーである市民の皆様との対話を最優先し、市長と語る会をはじめとする多様な機会を通じ、お一人お一人の声に真摯に向き合ってきました。今後もこの対話の姿勢を貫き、常に市民に寄り添いながら、誰もが鹿島に住んでよかったと心から実感できるまちづくりを推進していきます。

また、連携については、広域的なインフラ整備など市単独では解決できない課題に対応し

ていくためには、国、県、近隣自治体や関係機関、そして市民の力を結集させてこそ、大きな成果が生まれると確信して確信しています。

これまでに、県との連携による肥前鹿島駅周辺整備の推進や、近隣自治体と結束した広域幹線道路の整備促進、長崎本線の利便性向上に全力を注ぎ、事業の実現に向けた歩みを着実に進めてきました。このほか大学、高校との連携プロジェクトや民間企業との協定を通じ、まちの可能性を広げる強固な枠組みを築いてきたところです。

2期目は、この確かな礎を継承、発展させ、具体的な成果として結実させることを目指すステージと位置づけ、これまで築いた連携をさらに進化させていきます。

本年4月から第八次鹿島市総合計画がスタートしました。この計画を着実に実施していくことが、市民の皆様の満足度向上につながるものと考えています。

人口減少という厳しい現実があるからこそ、地域がつながり、支え合う絆を一層強固にしなければなりません。特に、未来を担う子供たちのために、教育環境の整備や子育て支援を力強く推進し、若い世代がふるさと鹿島に誇りを持ち、夢を語れるまちづくりを目指していきます。皆様と手を携え、目指すまちの姿である「つながる笑顔のまち かしま」を築いていきたいと思います。

この実現に向け、私が特に力を注ぐ重点施策について申し上げます。

初めに、重点施策の1つ目として、将来を見据えた社会インフラの整備について申し上げます。

持続可能なまちづくりを実現する上で、都市基盤の充実は欠かすことのできない最優先課題です。

広域幹線道路網の整備促進については、国と県において有明海沿岸道路の整備が着実に進められています。その中で、福富―鹿島間においては、昨年度、鹿島側で具体的なルートが示され、現在は用地買収が進められているところです。この道路は全線にわたり4県をまたぐ広域交通網ですので、関係する自治体との連携が極めて重要です。本年度も引き続きしっかりと連携し、国や県、国会議員に、その必要性和我々の熱意を強く訴えかけていきます。

また、国道498号鹿島―武雄間についても、引き続き県や沿線自治体と力を合わせながら、早期整備の実現に向けて取り組んでいきます。

肥前鹿島駅周辺整備事業については、令和11年度の全体整備完了に向け、昨年度から新駅舎の造成工事を進めています。いよいよ今年度からは本格的な建築工事に着手し、令和9年度内の完成に向け、着実に歩みを進めています。

本事業の推進に当たっては、県と市が強固な連携と信頼関係の下、知恵を出し合い、一丸となって着実に歩みを進めてきました。本事業の真の目的は単なる駅舎の建設にとどまりません。完成する新駅という舞台を市民が主役となって利用していただき、多様な人が行き交う場をつくり出すことこそが、まちの活性化につながるものと考えています。この駅をス

ローツーリズムと暮らしの玄関口と位置づけ、訪れる方には鹿島の自然や文化をゆっくりと味わうスローツーリズムの出発点として、市民の皆様にとっては気軽に立ち寄り、交流や新たな活動が生まれる場として育てていきます。

また、地域の自発的な活動や新たな挑戦を後押しし、鹿島ならではの魅力をさらに磨くことで、地域のにぎわい創出につなげていきます。

訪れる人も暮らす人も笑顔になれるまちづくりを目指し、取組を進めていきます。

都市機能の最適化については、若い世代が希望を持って未来を描けるまちを次世代へ引き継ぐため、取組を進めていきます。

まず、都市計画マスタープランの見直しにスピード感を持って着手し、ハード、ソフト両面の基盤を整えながら、長期的な視点に立った土地利用の最適化に取り組んでいきます。

また、公共施設のマネジメントを第八次鹿島市総合計画の重点施策に位置づけています。持続可能なまちづくりを実現していくため、地域づくりの拠点であり、住民サービスの基盤でもある公共施設の在り方を皆様と共に考え、様々な観点から検討を重ねていきます。

施設の老朽化に加え、人口減少、少子高齢化という現実と向き合い、市民の皆様との対話により最善の策を模索しながら、次世代へ負担を先送りすることのないよう取り組んでいきます。

次に、重点施策の2つ目として、子供たちの健やかな成長と郷土愛を育む環境づくりについて申し上げます。

人口減少社会への対応は、早急に取り組むべき課題であり、子育て支援をはじめとした少子化対策は、第八次鹿島市総合計画の最重要課題の一つと捉えています。出生前から子育て期まで切れ目のない支援を行うとともに、今必要な支援に的確に取り組んでいきます。

子供たちの安全と学びを支える環境整備については、近年の猛暑を受け、災害時に避難所となる中学校体育館に空調設置を進め、児童・生徒の活動時の安全・安心はもとより、体育館を利用される皆様の熱中症リスクの軽減と避難施設としての機能強化を図ります。

また、子育て世帯への経済的支援について、近年の物価高騰は学校給食の食材調達にも大きな影響を及ぼしています。これまで本市では、ふるさと納税や国の重点支援地方交付金を活用し、食材費高騰分への一部補助や、小学校6年生と中学校3年生を対象とした給食費無償化などを行ってきたところです。

本年度は、保護者の負担をより一層軽減するため、国、県が実施する小学校給食費の無償化に加え、市独自の取組として中学校の全生徒を対象とした給食費無償化を実施します。また、保育所等の給食についても食材費高騰分を支援するため、本定例会において補正予算を計上しています。

こうした環境づくりと並行して、私たちが次世代に引き継ぐべきものは、地域が育んできた誇りや精神的豊かさです。その観点から、子供たちの郷土愛の醸成に取り組めます。

本市には、面浮立や獅子舞など、先人が守り抜いてきた伝承芸能が市内各地に息づいています。これらの伝承芸能は単なる文化活動にとどまらず、地域を知り、ふるさとへの愛着を育む大切な教育の場でもあります。しかし、多くの地域では、後継者や運営資金の確保に課題を抱えており、活動を維持するための新たな支援が急務となっています。

こうした背景を踏まえ、地域の宝である貴重な文化資源を未来へつなぐべく、本定例会において、伝承芸能活動支援事業に係る補正予算を計上しています。各保存団体への支援を通じ、次世代への継承体制を構築していきます。受け継がれてきた郷土の祭りの記憶は子供たちの誇りとなり、未来の鹿島を担う力へ成長すると確信しています。

次に、重点施策の3つ目として、市民の暮らしを守る経済対策と産業支援について申し上げます。

物価高騰が市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼす中、本市ではこれまでも生活支援と消費喚起策の両面から取り組んできました。3月末から配布した「かしまを元気に！まるごと応援券」は既に御利用いただいているところです。また、4千円で5千円分のお買物ができるプレミアム付商品券事業についても、前回実績を上回る多くのお申込みをいただいています。これらの取組は、市内消費の下支えや地域事業者の支援につながるものと考えています。

今後も、中東情勢をはじめとする社会経済情勢を注視しながら、市民と事業者に寄り添った支援に努めてまいります。

持続可能な農業の実現に向けた取組について、現在、農業分野においては、担い手の減少や高齢化、資材価格の高騰といった厳しい環境が続いています。

本市では、こうした難局を乗り越え、次代を担う持続可能な農業を構築することが喫緊の課題であると認識しています。特に、トレーニングファーム卒業生や新規就農者、地域で意欲ある担い手農家が安心して営農できる環境づくりが不可欠です。このため、本市では園芸団地の整備を重点的に進めています。本年度は、常広地区におけるトマトやイチゴ等の施設園芸団地と飯田地区における根域制限ミカン栽培団地の整備を進める計画としています。

また、農業の競争力強化に資するスマート農業の普及拡大もスピーディーに進めていく必要があります。このため、スマート機械の導入支援について、国や県の補助事業を最大限に活用しつつ、市単独での支援も実施できるよう、本定例会において事業の拡充分に係る補正予算を計上しています。

今後も、現場のニーズを的確に把握し、本市の基幹産業である農業のさらなる振興のため、全力で取り組んでいきます。

有明海再生への取組については、漁場環境の改善や二枚貝類資源の回復といった加速化対策のほか、市独自の取組として、漁業就業者支援による担い手の確保にも注力していきます。

昨シーズンは、養殖ノリの種つけ作業がこれまでで最も遅い11月に入ってからスタート

となりました。このことが功を奏し、鹿島市沖でのノリ生産枚数は1億6,000万枚、販売金額は35億円に達しました。特に、販売金額は平成以降で過去最高を記録し、佐賀県全体としても4年ぶりに販売枚数、金額ともに日本一の栄冠に再び咲くという、誠に喜ばしい結果となりました。これもひとえに、漁協や漁業者の皆様による懸命な御努力、そして関係機関の御支援、御協力の賜物であると深く敬意を表します。

宝の海である有明海の再生と漁業のさらなる振興のため、関係機関と一丸となって取り組んでいきます。

まず、市長2期目の市政運営に当たり、特に力を注ぐ重点施策について述べさせていただきました。こうした施策の積み重ねが、さらなる活力あるまちづくりへとつながるものと確信をしています。

最後に、鹿島ファン獲得に向けた取組について申し上げます。

本市には豊かな自然や歴史、文化、そして、私たちの暮らしを支える産業など、この地ならではの様々な魅力が息づいています。こうした誇るべき地域資源をさらに磨き上げ、市内外へ積極的に発信し、鹿島のファン層をさらに拡大していくことが、今後の地域活性化の鍵となります。

令和6年度に市制施行70周年を迎えた契機として、本市に対する誇りと愛着を市民に再認識していただくとともに、地域の魅力を広く発信するシティプロモーションを展開してきました。本年度は、人や地域のつながりをたどる動画を制作し、SNS等で発信するほか、市内外の方々に様々な視点から鹿島の魅力を発信していただく鹿島市アンバサダー制度を新たに創設し、これまで行政からの発信だけでは届かなかった層に対しても、効果的な情報伝達を図ります。

これらの取組で、市民の皆様には改めて我がまち鹿島のよさを実感していただき、また、市外の方々には本市の存在と魅力を知っていただくきっかけを創出することで、今後も鹿島に関わり続けたいと思っていただける鹿島ファンづくりを推進していきます。

3月28日、29日に開催した鹿島酒蔵ツーリズム2026は、両日ともに天候に恵まれ、市内外から多くの方にお越しいただきました。今や佐賀県を代表する春の一大イベントとして定着し、着実に鹿島ファンを拡大させています。本年も、地域の食、人との触れ合いや交流を楽しんでいただいたとの声が多く寄せられました。日本酒を楽しむだけでなく、鹿島の暮らしや文化そのものを体感していただく、まさに私たちが目指すスローツーリズムの原点とも言える取組です。

また、先日5月31日には第42回鹿島ガタリンピックが開催され、国内外から約1,400人の選手をお迎えし、会場は笑顔と熱気に包まれました。本大会を通じて、本市の魅力を全国、そして世界に向けて発信することができました。

今後も、こうした本市ならではのイベントなどを大切にし、磨き上げながら、地域の皆

様と一緒に盛り上げていきます。

ふるさと納税については、令和7年度の寄附額は約1,490,000千円と、全国的な競争が激化する中であっても、前年度と同等の水準を維持することができました。ふるさと納税は、本市の市政運営を支える貴重な財源であると同時に、返礼品を通じて本市の生産者や風土を知っていただく地域への入り口でもあります。

今後は、全国的な寄附動向の分析を基に、新たなリピーターの獲得やポータルサイトにおける独自企画の展開など、より戦略的な取組を強化していきます。これからも市内事業者と一丸となって本市の魅力を広く発信し、継続的に応援していただける鹿島ファンの拡大に全力を尽くします。

鹿島に愛着を持ち、本市を支えてくださる鹿島ファンの獲得は、人口減少社会において地域活力の維持を図るために極めて重要です。

今後とも、市内外に鹿島ファンの輪を大きく広げ、その絆を深めることで、持続可能なまちづくりを推進していきます。

本市には、未来を切り開く豊かな可能性があるかと確信しています。先人より受け継いだ伝統や絆を大切にしながら、地域の資源を磨き上げ、刻々と変化する社会情勢にも的確に対応していきます。対話を市政の原点に据え邁進し、市民の皆様と手を取り合い、強固な連携の下で、目指すまちの姿「つながる笑顔のまち かしま」をつくり上げていきます。

以上、6月定例会の開会に当たり、所信の一端を申し上げます。今後とも、市民の皆様並びに議員の皆様のさらなる御理解と御協力をお願い申し上げます。

それでは、提案する案件について、その概要を説明します。

議案は、報告5件、補正予算1件、その他2件の合計8件です。このうち主な議案について申し上げます。

まず、議案第23号 令和8年度鹿島市一般会計補正予算（第1号）について申し上げます。

今後の補正は、予算の総額に168,117千円を追加し、補正後の総額を16,675,117千円とするものです。

令和8年度一般会計当初予算は、市長改選期に当たり、いわゆる骨格予算として編成をしていましたので、本定例会において新規事業や市単独の投資的事業などの政策的経費を加え、肉づけ予算として提案するものです。

歳入については、事業の決定や追加などに伴う国・県支出金のほか、基金繰入金、コミュニティ助成事業助成金などを計上しています。

歳出のうち主なものとしては、総務費では防犯カメラ設置等事業を、民生費では保育所給食費等支援事業を、農林水産業費では新規就農総合支援事業を、商工費では観光トイレ管理事業を、教育費では文化財保護対策事業を計上しています。このほか、個人や企業様から御寄附をいただいていますので、それぞれの御寄附の趣旨に従い、有効に活用させていただき

ます。

最後に、報告事項について申し上げます。

報告第2号 令和7年度鹿島市一般会計繰越明許費繰越計算書、報告第3号 令和7年度鹿島市水道事業会計予算繰越計算書、報告第4号 令和7年度鹿島市下水道事業会計継続費繰越計算書及び報告第5号 令和7年度鹿島市下水道事業会計予算繰越計算書については、昨年度の予算執行段階で諸般の事情により予算の一部を本年度に繰り越して使用することとしましたので、それぞれの関係法令の規定に基づき報告するものです。

以上、提案する主な議案の概要について説明しました。その他の議案や詳細については、御審議の際、担当部長、または課長が説明しますので、よろしく御審議いただきますようお願い申し上げます。

○議長（徳村博紀君）

以上で本日の日程は終了いたしました。

明6日から10日までの5日間は休会とし、次の会議は6月11日午前10時から開き、議案審議を行います。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午前10時32分 散会